

かがわの里海 この人に聞きたい！ 開催しました！



- 日時 令和5年11月4日(土)10:00~12:00
- 場所 興亜産業株式会社(丸亀市蓬萊町)
- 話し手 藤本 良樹 氏 (興亜産業株式会社)
- 聞き手 岡 加依子 氏 (かがわ里海ガイド)

11月4日(土)、興亜産業株式会社にて、「かがわの里海この人に聞きたい！」を開催し9名が受講しました。これまでは漁師さんにお話を伺ってきましたが、今回は海で活躍する船に注目し、造船所で働く人のお話や造船所見学を通じ、船が私たちの生活に与える役割について考えました。

かがわの里海をよく知る岡さんをお招きし、興亜産業株式会社の藤本さんと清水さんに造船に関することや、船と私たちの生活の関わりについてお話を伺いました。興亜産業株式会社は木造船の建造から始まり、石油製品運搬船、貨物船、旅客船などの建造実績があり、高松港と男木島・女木島を結ぶフェリーとして知られる“めおん(初代)”や“めおん2”、海面清掃船“みずきII”などの船も造られたそうです。現在では内航ケミカルタンカーと呼ばれる国内で液体化学製品を運ぶ船の建造を得意とされているそうで、内航ケミカルタンカーについてクイズを交えながら分かりやすく解説していただきました。海上輸送は陸上輸送よりも効率的な輸送手段であり、ペットボトルやシャツの原料、サラダ油など身近なものを運んでいることに受講者たちは感心しきりな様子でした。

そして、興亜産業株式会社が建造した次世代内航電気推進タンカー船“あさひ”について命名・進水式の映像を見た後、その特徴について解説していただきました。“あさひ”は世界初の電気の力だけで動き、動力源となるリチウムイオン電池の容量は3480kWhと一般的な電気自動車約100台分に相当し、自然災害発生時には船内から陸上へ電力供給が出来るそうです。受講者からは「バッテリーの寿命について」「環境に与える影響がどれくらい変わるのか」などの質問があり、関心の高さが窺えました。



造船所を見学しました

講座の後半は、藤本さんと清水さんの案内で造船所を見学しました。まず目に入ったのはびぜん丸。総トン数499t、全長67.3mとのことで近くで見るととても大きく、船は5年ごとに定期検査が義務付けられているようで、10年目の定期検査を行っていました。次にブロック製造とぎょう鉄を行っているエリアを見学しました。巨大な船体はいくつかのブロックに分けて製造し、最終的にそれらをつなぎ合わせて1隻の船が出来上がります。この製造方法を船体ブロック工法と言い、非常に高い精度でのモノ作りが求められるそうです。職人たちの作業を間近で拝見し、現場の緊張感が伝わってきました。続いて、建造中の船を見学しました。約9カ月で1隻の船が完成するそうで、ここでは年間4隻の船を作っているとお話がありました。その後、艀(ぎ)装岸壁へ移動しました。



新造船“すいは”を特別に見学させていただきました

艀(ぎ)装岸壁では進水した船の機器の運転調整や甲板上の最終塗装を行う場所だそうです。今回、完成したばかりの新造船“すいは”を特別に見学させていただきました。乗組員の休憩スペース、キッチン、エンジンルーム、操舵室など普段見ることの出来ない場所を見学し、受講者たちは満足そうな表情を浮かべていました。



見学を終え、最後に藤本さんより「船を見かけたら興亜産業の船のことも思い返してほしい」とお話があり、普段聞きなじみのないケミカルタンカー船が実はみんなの生活に必要な不可欠であることを学びました。また、次世代内航電気推進タンカー船“あさひ”の完成によって造船業のあり方も大きく変化していることを知り、大変有意義な講座となりました。

受講者からは「日頃見られない場所を見られてよかった」「説明も分かりやすく、質問の時間も十分に取っていただけてよかった」などの感想がありました。